



城南小学校 学校だより

令和2年11月30日(月)

校長 中嶋英雄

<ホームページ>

明治15年・山岡鉄舟揮毫の校名額

<http://school.cts.ne.jp/~jonan/index.html>

言葉のむこう

校長 中嶋英雄

10月のある日、朝家を出たら、目の前に“虹”が広がっていたのです。その間、10分くらいでした。建物や電線の少ないところを探して、何枚もシャッターを切りました。端から端までくっきりと見える大きく鮮やかな虹でした。「すごい」と自然と声が出て、とても元気な気持ちになりました。

歴の上では、11月22日頃に虹の季節が終わりを告げるのだそうです。歳時記の七十二候の一つ、『虹蔵不見・にじかくれてみえず』が過ぎても、本校では“感謝の虹”がかかり続けています。今、昇降口の壁面には、友達や家族、給食室の方々や教職員へあてた感謝のメッセージが素敵な虹となつて掲示されています。市民科授業地区公開講座の際にご覧になられた方もいらっしゃるかと思います。

お礼を言葉で表して感謝の気持ちを伝えることで、相手との絆は深まるでしょう。さらに、その思いが確かなものとなり、その後の行動にも繋がっていくようになるのではないかと思います。言葉に表出することを大切にしていきたいと改めて感じさせられました。

「もしも 話すことばが 目に見えたら どんなかたちを しているだろう」

おーなり由子さん(絵本作家)の絵本『ことばのかたち』(講談社)は、この問いから始まります。

「たとえば— うつくしいことばは 花のかたち
色とりどりの花びらとなって くちびるから はらはら まいおちる」

しかし、次のような一節もあります。

「たとえば— だれかを傷つける ことばが
針のかたちを しているとしたら どうだろう」

実際に、話す言葉が見えたらどうでしょう。

“どんな花になるだろう?”とか、“明るい色だといいな”とか、あれこれ想像してから話をするようになるかもしれません。

“きれいな花を届けられてよかった”とか、“そんなつもりじゃなかったのに”とか、言葉を発したあと、さまざまなことを感じるようになるでしょう。

“ありがとう”とか、“そういうことだったのか”とか、言葉を受け取る際にも、いろいろと考えさせられることがあります。

おーなり由さんは、巻末に次のように記しています。

「知りたいのは、言葉そのものではなく— どこにも書いていない、消えてゆく言葉の、そのむこうのけしき。温度。心どうしが、ずっと近づくような。ひとは、思っているよりも、ずっとたしかに、言葉のむこうをやりとりする力をもっている気がするのです。」

まなざし、ほほえみ、なみだ、くちびる、しぐさ、手のぬくもり、におい…言葉に形がなくても、見えるもの、感じるものはあります。これら五感を大切に、言葉のむこうをやりとりする力を失わないようにしていきたいものです。

赤ちゃんは、おっぱいを飲んでる小さいうちから、お母さんやお父さんの顔を一生懸命に見て、その視線を追い、「まなざし」を合わせようとします。それは、赤ちゃんがまねる本能を駆使して、『感性、言葉、笑顔』を獲得しようとしているからです。密着した肌のぬくもりの中で、赤ちゃんが大人に「まなざし」で問い、大人がそれに「まなざし」で応え、やがて、それに言葉や感情を添えていくことが、親子の双方向的なコミュニケーションの始まりとして、大きな意味をもちます。

小学生の子供達にとっても、テレビやゲームばかりではなく、家族が「まなざし」を交わし、微笑みかけ、温かい言葉で語りかけてくれることこそが、人間的コミュニケーションの礎となるでしょう。

「なみだを わらいとばす ことばは ひかる入道雲のように
あかるくわいて 雨のあとの 虹をつくる」

(絵本『ことばのかたち』の一節)

12月の生活目標

落ち着いて仕事や勉強にはげみましょう。

<12月の行事予定>

日	曜日	主な行事予定
1	火	キャリア教育（6年）
2	水	
3	木	
4	金	保護者会（低）CAP講座（保護者）
5	土	保護者会（高） 和太鼓（3年） 開校記念日（146周年）
6	日	
7	月	桐木目込細工体験（4年）
8	火	
9	水	キャリア教育（6年） 秋のお店屋さん（1年・幼）
10	木	安全指導日
11	金	避難訓練
12	土	
13	日	
14	月	薬物乱用防止授業（6年）
15	火	
16	水	午前授業
17	木	脊柱側弯症検査（5年）
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	囲碁教室（6年）
23	水	1～3年午前授業 クラブ活動
24	木	
25	金	終業式 給食終 午前授業 大掃除
26	土	冬季休業日始
27	日	
28	月	仕事納め
29	火	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 1月6日（水）始業式 給食始 午前授業 1月7日（木）1～4年書き初め会 午前授業 1月8日（金）5・6年書き初め会 安全指導日 午前授業 </div>
30	水	
31	木	

※ 算数少人数として、講師の久富 耕輔（ひさどみこうすけ）先生が着任しました。

※ 学校への電話は、8：00～17：30までをお願いしています。ご協力お願い致します。

（17：30～8：00までは、03-4330-5105へ）*詳細は学校H.P.にてご確認ください。

江戸切子体験について

3年担任

市民科の文化創造、文化継承の学習の一環として、南品川在住の江戸切子職人川辺勝久さんをお招きして、江戸切子体験を行いました。江戸時代から続く伝統工芸「江戸切子」。なかなか間近で見たり体験したりする機会はないので、とてもいい経験になったと思います。

当日は、川辺さんの作品を見たり、川辺さんについてもらいながらガラスの底に細工をしたりしました。間近で見る江戸切子の作品は、とてもきれいで繊細でした。刃を使い分けて細かく模様を刻んでいくことを知り、職人さんの技術のすごさを感じることができました。

また、実際にガラスの底に細工をする体験をする時は、少し緊張した面持ちでしたが、やり終えた後は、「楽しかった！」という声が、色々なところから聞こえてきました。

自分だけのガラスが出来上がり、満足そうな顔をして家に持ち帰りました。出来上がったガラスの使い方は様々です。本人専用になっているのか、それとも、おうちの方の晩酌に使われているのか…。インテリアとして使ってもいいかもしれませんね。自分で細工をしたガラス、ぜひおうちで大切に使ってください。



東海道歴史探訪について

6年担任

11月7日（土）旧東海道歴史探訪がありました。この取組みは、「パパの会」と「まちづくり協議会」の方々が、計画、準備、当日の動きまでをしてくださっていることによって成り立っている学習です。今年で3年目を迎えました。八ツ山橋辺りから学校の隣の

長徳寺までの間に10個ほどのポイントが用意され、6年生が

まちづくり協議会の方と一緒にグループで回りました。各ポイント

では、歴史にまつわる話があったり、歴史上の人物や時代劇さな

がらの服装をした方が登場したりと、趣向を凝らした催しが準備

されていました。また長徳寺では、普段開かれることのないお堂が開かれ、貴重な閻魔像や地獄絵図

を見ることができました。各グループやポイントの安全管理にも、保護者の方々がたくさん参加して

くださったことで、6年生も安心して楽しく参加し、自分たちが暮らす旧東海道の歴史に触れること

ができました。たくさんのボランティアの方々のご協力のもとで実施できたことに感謝の気持ちでい

っぱいです。ありがとうございました。



生活科見学について

2年担任

11月13日（金）、1年生と2年生合同で生活科見学を実施しました。「なぎさの森公園」という、城南小から歩いて1時間半ほどの公園に行きました。1年生はどんぐり拾いを楽しみ、2年生は干潟まで足を延ばして潮が引いた様子を見学しました。「こんなに大きいどんぐりがあったよ！」「多くの生き物がこの公園に来るんだね。」といった子どもたちの声が聞かれました。お弁当は、食事中に友達と話さないというルールで食べました。子どもたちは話したい気持ちを抑え、今の状況下でやるべきことを理解して静かに食べていました。それでもお弁当の美味しさに自然と笑顔がこぼれていました。公園までの行き帰りは、1年生と2年生がペアになって歩きました。1年生にとっては長い距離の移動でしたが、最後までしっかりと足取りで歩いていました。「まだまだ歩けるよ！」といった声もあり、とても頼もしかったです。2年生は、1年生の手本として、列での歩き方を教えたり、励ましながら歩いたりする姿が多く見られました。上級生としての自覚をもつきっかけとなった子どもが多かったのではないかと思います。そうした姿が校内でも増えていけるように、これからも日々指導していきます。



縦割り班清掃について

市民科担当

10月末より、たてわり班清掃が始まりました。月・水・金曜日の放課後に1～6年が集まって各教室などの掃除をしています。清掃の始まる前日には、たてわり班顔合わせ集会をしました。事前の班長会議で、班長としての心構えや、顔合わせ集会の流れについて考え、自信をもって集会に臨めるようにしました。集会では、自己紹介で自分達の班のメンバーを確認したり、6年生の班長が、4つのグループ分けを発表したりしました。美化委員会が作成した「ほうきの掃き方」「床の雑巾のかけかた」「机の拭き方」「机の運び方」「机・椅子の消毒の仕方」「反省会の仕方」などの動画も見ました。1年生にも、分かりやすい内容で、掃除の仕方がよくわかったようです。そして、実際に集会の翌日から掃除を始めました。基本は、『無言清掃』です。6年生や5年生のリーダーが、やり方の分からない低学年に、優しく教える場面も見られました。たてわり班活動、そして、たてわり班清掃は城南小の伝統です。上級生が下級生を優しくお世話します。



「自分が6年生になったら今の班長のようにになりたい」と思える上級生であってほしいと思います。